

## トヨダヒトシ

写真家。1993年以來ニューヨークを拠点にし、ブロードウェイ沿いの駐車場やチャイナタウンの公園、教会、劇場といったパブリック・スペースにおいてアナログのスライド映写機を自ら操作して上映するライブ・スライドショーという形式で映像日記作品を発表し始める。2000年より日本各地の美術館やギャラリーといったアートスペースのほかに、山奥の廃校になった小学校の校庭、三内丸山遺跡、米国各地の映画祭などでライブ形式での上映を続けている。2012年に拠点を日本に移す。

## 吉村弘(1940-2003)

音楽家。横浜市に生まれる。早稲田大学第二文学部美術科を卒業、コンクリート・ポエトリーや図形楽譜を発表したほか、造形と音響を自在に組み合わせたサウンド・インスタレーションを発表。また独自の音具を用いたパフォーマンスを行った。ホームやホテル、ホールなど公共空間のサウンド・デザインを多く手がけ、『都市の音』(1990)をはじめ著書、CD多数。「KAMAKURA SOUND LOGO」は、2003年の葉山館開館に際して、鎌倉館、葉山館の開館・閉館の音楽として全4曲が創作されCD化もされている。

## トヨダヒトシ スライドショー(ライブ・パフォーマンス)

## トヨダヒトシ/スライドショー(ライブ・パフォーマンス)

出演:トヨダヒトシ

音響:川端龍太

日時:2015年10月24日(土)、25日(日) 午後5時~6時

場所:神奈川県立近代美術館 鎌倉 中庭

主催:神奈川県立近代美術館

〒248-0005 鎌倉市雪ノ下2-1-53

Tel. 0467-22-5000

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

神奈川県立近代美術館 鎌倉

## 記憶と創造

鎌倉館の開館当初、中庭の北側壁の上部には映写用のスクリーンがセットされていました。当時は「幻燈」と呼んでいたスライド、そして、映画も上映されました。

鎌倉館閉館を来年に控え、この「伝説」のスクリーンを再現し、写真家トヨダヒトシ氏に上映をお願いしました。トヨダヒトシ氏は、プリントでも写真集でもなくスライドショーという形式にこだわって作品を発表されてきたアーティストです。60年以上前の遠い記憶を呼び起こすと同時に、そこに創造の息吹きを新たに注ぎたいと思ったのです。二夜連続の上映です。

一日目は、トヨダ氏の旧作「白い月」のヴァージョンアップされた作品。世界の変貌を、あくまで日常の光景の連続に、淡々と感じさせながら、しかし、やがて見えない世界の奥行きへとそのままざしは静かに達していきます。今また、さらに混迷を深めるわたしたちの現在をトヨダ氏は洞察力をもって映像化してくれることでしょう。

二日目は、吉村弘に捧げられた作品です。吉村弘は、環境音楽の草分けのひとりであり、鎌倉館と葉山館の開館と閉館のための音楽を作曲しています。吉村は、都市のきままな散歩者(フラヌール)であり、その音風景に耳を澄ませ、なにげない都市風景をスケッチし、カメラに残しました。今回、当館が所蔵する吉村弘の歴大なスライドから精選し、独自に構成し、スライドショーとして作品化することをトヨダ氏に委嘱いたしました。

ここでも記憶が生き生きと蘇るにちがひありません。

2015年10月

神奈川県立近代美術館長  
水沢 勉

**10月24日(土)** 午後5時~6時

**映像日記「白い月」** (2010-15年、35mm・スライドフィルム、サイレント)

ある年のニューヨーク。春から冬へと向かう日々を綴った長編映像日記。

ある4月の朝／この街に住みはじめて何年になるのだろう／台所の窓／  
寄せては返すもの／エリー湖／波のない日は底に沈んでいるものが見えた  
／友人との食卓／蚊柱／きのう、イラクの町で62人が亡くなった／何気ない  
会話も／後悔も／北の寺へ／寄せては返すもの／静かな光／冬へ

**10月25日(日)** 午後5時~6時

**「for Nine Postcards」** (2015年、35mm・スライドフィルム、サウンド)

日本の環境音楽の第一人者として知られた吉村弘の遺した約2800枚のスライド写真のなかから編んだ委嘱作品。

彼が見た空があり、雲があった。冬枯れの樹があった。路面の傷。ことばがあり、遙かさがあり、鏡のような音があった。雨が降り、ひとり言のような詩があった。吉村弘という一人の人の生きたことの面影があった。